

糖尿病対策について②

—糖尿病ハイリスク患者のケアの充実について—

第1 現状と課題

- 1 生活習慣病対策は、平成18年度医療制度改革において重点的な課題として位置づけられており、その中でも糖尿病については、継続的な管理により、重大な合併症を防ぐ必要がある。
- 2 糖尿病の合併症である糖尿病神経障害と末梢動脈疾患等が原因となり、足趾の変形、潰瘍、壊疽といった「糖尿病足病変」が発症する。糖尿病実態調査によると、糖尿病患者が発症する足壊疽の頻度は、1997年の0.4%から2002年には1.6%に増加している。
- 3 「糖尿病足病変」である潰瘍や壊疽が進行することで、足趾や下肢の切断につながることもあり、特に神経障害を有する場合には患者の自覚症状が乏しく発見が遅れることもあることから、十分な管理が必要である。
- 4 現在、糖尿病治療については、医師の指示の下に看護師等が足潰瘍や壊疽等のハイリスク患者に対して、重点的な指導を実施している例もみられ、今後、こうした取組を推進し、重症化を防ぐことが重要である。

<参考>

- ・「糖尿病が強く疑われる人」は約740万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」約880万人と推計され、成人の6人に1人が糖尿病予備軍とされている
(厚生労働省「平成14年糖尿病実態調査」)
- ・糖尿病の総患者数 約247万人
(厚生労働省「平成17年患者調査の概況」：治療を受けている患者数の推計値)
- ・糖尿病医療費 1兆1,168億円 (厚生労働省「平成16年度国民医療費」)

第2 論点

糖尿病患者のうち、糖尿病足病変のハイリスク患者に対して、医師が必要と認めた場合、糖尿病足病変が悪化することを防止するための専門的な指導等を実施した場合の評価の在り方を検討することとしてはどうか。